

アンケート・紙回答No.39「別紙」

障害者週間のイベントは、ここ3年パラスポーツが取り上げられ、パラアスリートに焦点が当てられてきたが、スポーツ以外のジャンルで活躍する障害者も佐倉市内にいますので、そのような人達も日の目を見るような企画にしていきたい。そして、一般市民への啓発はもちろん、その場に参加している障害者自身が励みになるような、楽しめるような企画にもしていきたい。

京成電車の障害者割引だが、臼井駅には4枚も注意喚起の貼り紙が貼ってある。志津駅・ニューカリが丘駅・京成佐倉駅には、そのような貼り紙はないので、違和感を感じる。おそらく、駅周辺に精神科医療機関や福祉事業所があり、その患者が障害者割引を利用するのだと思うが、7月上旬頃は1枚しか貼り紙がなかったもので、効果が薄かったために貼り紙が増やされたと考えられる。だが、障害特性によっては、貼り紙を見ても、理解が難しい障害者もいる。また、小学校時代に障害を発症して、お客さん状態で学校生活を送り、年相応の文章力が身についていない障害者もいる。貼り紙を増やすより、例えば動画を作成して流すとか、同じ貼り紙でも漫画で表現する等、別の方法で説明した方が伝わるのではないだろうか？

見守り付き配食サービスはありがたい。コンビニの配食サービスは、玄関で押印もしくはサインしないと受け取れない。再配達はなく、タイミングを逃すと、店舗に出向かなければならない。調子が悪くても、置いていたり、中まで届けてくれないので、利用をあきらめた経験がある。また、調子が悪いと、注意が行き届かず、水が出しっ放しだったり、ガスの元栓を閉め忘れたり、電気が付けっ放しだったりもする。気づいた範囲で構わないので、配食のついでに指摘していただけると助かる。

電話相談は、場面緘黙症の人には役立つ。10:00~16:00まで作業所にいても、そこでは一言も話さないのに、作業所から帰宅した途端、電話を他の利用者達にかけてしまう。それも一度ではなく、何度もかける。かかってきた側は緊急連絡かと思って電話に出るが、「就労先が決まった。」という話で驚いてしまう。ど素人では手に負えない。こういうケースには、訓練を受けた相談員に電話を受けていただきたい。なので、対面の相談ばかりでなく、電話相談の充実も考えていただきたい。